

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。高校生活はいかがでしたでしょうか。あっという間だったという人、長〜い3年間だったという人、人それぞれだと思います。ここまで育ててくれた保護者の方やお世話になった先生方への感謝の気持ちを忘れず、これからの人生を歩んでいってほしいです。一人ひとり進む道は違いますが、自分が選んだ道ですので、すぐに弱音を吐いたりせず、「石の上にも3年」の気持ちで、頑張ってください。君たちの活躍と健康を心から願っています。

## デートDVに関する座談会を実施

1月17日（金）に、3年生を対象にデートDVに関する座談会を実施しました。大洲市の人権擁護委員の方5名にお越しいただき、人権擁護委員の役割やデートDVについての説明をしていただきました。その後、DVDを観賞したり、意見交換を行ったりして、デートDVについての理解を深めました。

3年生のほとんどがデートDVという言葉は聞いたことがあるようでしたが、「殴る・蹴る」などの身体への暴力だけがDV（ドメスティック・バイオレンス）ではなく、相手を自分の思い通りに動かそうとする態度や行動もDVで、相手の人権を著しく侵害する重大な問題であることを学びました。



以下に、生徒の感想をいくつか紹介します。

- ★ 暴力だけがDVじゃないと知ることができた。
  - ★ 暴力を振るわれるくらいなら別れたらいいと思うけど、そう簡単には別れられないという辛さはよく分かった。
  - ★ デートDVする男は最低なやつだと思う。DVすること自体問題外だ。嫉妬や束縛など度が過ぎると、大変なことになるなと思った。
  - ★ 彼氏に女の子と話さないでと言ったり、バイトを辞めさせるようにしたり、メアドを勝手に消したりと束縛する彼女がいて、ちょっとやりすぎだなと思った。
- 
- ★ デートDVをしていることに自覚がないのに腹が立ったし、されている人も自分がそうされているのを許してしまうことにびっくりした。
  - ★ どんなに好きな人でも、私は私、彼は彼という立場を忘れず、距離感を大切にしていきたいと思った。相手には相手の時間の使い方があって、過ごしてきた環境も違うので、すべてが自分と同じわけではないということを忘れないようにしたい。
  - ★ 相手のプライベートな時間まで縛り付けようとする行為に、愛だな…と感じることはないけど、自分の恋人がそういう人だったら…と考えるとゾッとした。
  - ★ この世界からDVが消え、この出前講座が必要とされないことを祈っている。
  - ★ 自分がDVの被害に遭ったら、今回教えてもらった番号に電話するなどして相談したい。
  - ★ 今回のような生活に関することを学習できる機会がもっとあれば嬉しい。

## 人権教育HR活動を実施

1月24日（金）に、今年度最後の人権教育HR活動を実施しました。

1年生は、「差別の現実に学ぶ（Ⅲ）」というテーマで学習しました。1組は1年間で振り返り、自分が1年間で成長したことや反省などを考えたり、クラスの良い所や反省点を考えたりしました。また、より良いクラスになるために一人ひとりが何をすべきか考えました。2組は部落差別に関する状況を理解し、同和問題をはじめとするあらゆる差別のない社会を築くためには、自分が何をすべきかを考えました。また、昨年大洲高校人権委員会が製作したDVDを鑑賞し、人権三法に関する知識を深めました。



2年生は、「人権の歴史（Ⅲ）戦後の解放運動」というテーマで学習しました。戦後の差別解消に向けた取組について学習し、同和問題解決に向けて前進してきたことを理解することを理解しました。また、差別をなくす取組が全ての人の人権保障につながってきたことを学びました。



## 大洲市人権学習報告会に参加

1月31日（金）の夜、肱北公民館において大洲市人権学習報告会が開催されました。本校からも人権委員が参加しました。まず、愛媛県人権対策協議会大洲支部の方から「全国高校生集会・愛媛県友の集い」の派遣事業について説明があり、その後長浜高校の人権委員による参加報告が行われました。会場には多くの方が来られておりました。



最後に、人権についてトークセッションが行われました。大洲市内の高校生2人がステージに呼ばれ、司会者の進行に従って、意見や感想を述べ合いました。生徒それぞれが自分の考えを持っており、積極的に話し合いに参加していました。会場の方々も温かく見守っていました。

以下に、生徒の感想を紹介します。

- ★ 鹿児島県で行われた全国集会のことを長浜高校の人権委員が発表していた。そこで一緒に学んだことや、食べた料理のことを思い出すことができた。
- ★ 長浜高校の人権委員の発表は私たちも来年度行く予定の研修なので、興味を持って聞くことができた。また、トークセッションが心に残った。私たちの同世代の人がここまで人権について考えているのかと思った。人権委員として1年近く活動してきたが、一番心に残る内容だった。

## 大島青松園に行ってきました！

人権教育・教育相談課 西森亮二



みなさんは、「ハンセン病」って知っていますか。ハンセン病とは、「らい菌による極めて感染力の弱い慢性の感染症。感染しても発病することはまれであり、1943年特効薬『プロミン』が開発され、完治する病気になりました」（「人間の輪」から）であり、国による隔離政策と社会の偏見と差別により、患者をはじめとする多くの人々を苦しめてきた歴史をもつ病気です。その四国における療養所が、香川県高松市の沖合にあるこの大島青松園です。

この年末、かつての「隔離と偏見・差別の島」の痕跡と今を見学し、今なお居住されている元患者の方のお話を伺いました。納骨堂、宗教施設、火葬場、解剖台、住居等々、衝撃的な現場とお話の連続でした。とても書ききれぬものではありません。

今年、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて「隔離か人権か」の議論が巻き起こりました。「感染症の歴史は差別の歴史だ」との見解もあります。同じ過ちを繰り返してはいけません。百聞は一見に如かず。みなさんも是非大島青松園を訪れ、じっくり見学し、深く人権を考える機会をもってほしいものです。

来年度も、生徒たちの人権意識向上のために、充実した活動を行っていかうと思っています。人権委員になっていっしょに活動してみませんか。楽しいですよ。みなさんの加入を心よりお待ちしております。共に考え、共に学びましょう！

（人権教育・教育相談課 尾田）